

公害をのりこえた北九州市

社会 第5学年
白山市立広陽小学校・教諭

1 事例の概要

平成15年12月の学習指導要領の一部改正に伴い、「確かな学力」を育成し、「生きる力」を育むというねらいの一層の充実が求められている。

一方、本校の子ども達の実態を見てみると、明るく活発で、素直に行動できるが、一つのことにじっくりこだわって調べてみたり、多面的な視点から物事を見たり考えたりすることが苦手な子が多い。また、人間関係の希薄化により、周囲の人とうまくかかわりながら、物事に取組んだりするといったこともあまり得意とは言えない。授業でも、事実を問うような簡単な発問には意欲的に答えるが、自分の考えを話したり書いたりすることは、まだまだ自信のもてない子が多い状態である。

そこで、このような教育の動向と子どもの実態をふまえて、社会科の基礎・基本につながる力を「自ら調べ考える力」ととらえ、じっくりと調べ、それをもとにした多様な考えを出し合う授業を展開していくことで、問題解決能力を育てていきたいと考えた。

また、このような力を育成していくためには、子ども達が課題意識をしっかりともち、調べ活動で確かになった事実認識をもとにじっくりと思考する授業を展開していくことが大切であると考えた。そこで、授業の中での思考場面の位置づけや教師の指導・支援・評価のあり方を試行錯誤しながら、「確かな学力」の育成に迫っていきたいと考えた。

A-1 自ら調べ考える力

A-2 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・公害の具体的事例について各種資料をもとに意欲的に調べ、身の回りの環境に関心をもつことができる。 [関心・意欲・態度]
- ・公害の原因やその被害の実態、また人々による環境改善の取り組みを具体的に考えることができる。 [思考・判断]
- ・公害の具体的事例について、その原因や被害の実態、改善への人々の取り組みを各種資料をもとに調べ、それを自分なりの言葉で表現したり新聞にまとめて表現したりすることができる。 [技能・表現]
- ・公害防止の大切さや公害から生活環境を守るためには、人々の協力が必要であることに気づくことができる。 [知識・理解]

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 指導方法の工夫

- ア 子ども達に課題意識が生まれ、追究意欲が高まるような資料の提示を工夫する。
- イ 単元の中心課題について、調べる時間と学習環境（資料の準備など）を保障する。

② 評価の工夫

- ア 学習指導案に目標、評価規準、評価方法を明記し、計画的に評価する。

B-1 指導案

B-2 評価の工夫

3 指導の実際

第一次 北九州の公害（1時限）

- 2つの写真の変化を見る。（「七色の煙」と「星空の町」）

（写真）1955年頃の北九州市の空



（写真）2000年頃の北九州市の空

- 城山小学校の資料から公害の被害の様子を考える。



北九州市の公害は、小学校がなくなってしまうほど大きな被害があったんだな。どうして「七色の煙」と呼ばれていた空が、「星空の街」に選ばれるほどきれいな空に蘇ったのかな。

2枚の写真と城山小学校の児童の書いた「公害」の詩から50年前の公害の様子について思いを膨らませることができた。しかし、2枚の写真を比べるという意識が低かったので、次時で確認した。写真の提示の仕方に工夫が必要であった。

第二次 公害を克服するための取り組み（3時限+課外）

〈どのようにして「七色の煙」の街を「星空の街」に変えたのだろう〉

- 予想を立て、それをもとに調べる。
- 調べたことを発表する。
- 「七色の煙」→「星空の街」に何年かかったのかな？

〈どうして37年間かかったのだろう〉

- 考えを話し合う。

この課題が単元を中心課題であった。文章資料など難しい資料が多かったが、子ども達は丹念に事実をつかみとっていた。事実を発表していくうちに、市民の訴えが改善への第一歩であったということに気づくことができた。

第三次 これからの環境を守る（1時限）

〈環境を守るために自分たちにできることを考えよう〉

- 現在の北九州市の取り組みを調べる。

公害の克服にかけた人々の努力に気づかせるために、この課題を投げかけた。課題をつくるのに時間を要したが、前時で明らかになった事実やこれまで使った資料をもとに、自分なりに考えることができ、公害の克服が容易ではなかったことやそれにかかる人々の思いに迫ることができた。

第四次 まとめ（1時限+課外）

- 学習したことを新聞にまとめる。
- 環境問題についての自分の考えを社説にまとめる。

C-1 子どものノート

4 成果と課題

(1) 学習指導の工夫

- ① 単元を中心課題について、予想を立て、それを検証するための調べる時間と学習環境を十分に保障することで、多様な調べ活動ができるとともに、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができた。
- ② 子ども達に「強い課題意識」があり、個々の調べ活動や事実の交流によって「確かな事実認識」がなされたとき、課題に対して豊かに考える授業を展開できることが分かった。
- ③ どんな課題を、どのように設定していくのか、子ども達が考えたいくなる課題づくりについては、さらに吟味していく必要がある。

(2) 評価の工夫

子ども達に分かって楽しい、できて楽しい授業をするためには、子ども達の学習への取り組みの状況や理解の程度などを常に評価しながら、評価規準に到達しない子への指導・支援を行っていかねばならないと感じた。

D-1 学習指導の工夫②

5 その他

E-1 「自動車工業」指導案

E-2 「米づくり」指導案